

(別紙様式)

教科用図書調査に関する報告書

教科	特別の教科 道徳
----	----------

発行者の略称	教科書名	選定委員会から付された意見
東書	新訂 新しい道徳 1 新訂 新しい道徳 2 新訂 新しい道徳 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめや命の大切さに関する教材が充実している。 ・ 色々なところから出典があり、読み応えがある。 ・ 生徒作文が取り上げられており、心惹かれるところがあった。 ・ これまでよく扱われてきた「裏庭でのできごと」や「一冊のノート」など、定番の教材が少ない。新しい資料を多く取り入れているとも考えられるが、定番の教材もあった方が良いのではないか。 ・ マンガが様々な場所にあるが、どのようにして使うのか、少し気がかりである。
教出	中学道徳 1 とびだそう未来へ 中学道徳 2 とびだそう未来へ 中学道徳 3 とびだそう未来へ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各社で同じ教材をいくつか取り上げている中、2年 P56 の「清掃はやさしさ」に注目すると、出版社によって、文章に違いがある。同じ教材でも何を教えたいかによって取り上げ方が異なり、P59 で清掃用具について取り上げたり、P61 に「学びの道しるべ」を設定したりと、教材を読み深めていく工夫がされている。 ・ 2年 P128 「語りかける目」は、生徒が読んで涙を浮かべるようなインパクトのある感動的な教材である。 ・ タイトルの下に問いかけがあることで、生徒によっては決まりきった答を先に持ってしまうのではという懸念がある。 ・ いじめ問題についてユニットとして取り上げているが、いじめに関する教材は少ない。 ・ 人物や伝統文化に関する教材が多いが、兵庫版の心シリーズの活用も求められている現状からすれば、少し多く感じる。
光村	中学道徳 1 きみが いちばん ひかるとき 中学道徳 2 きみが いちばん ひかるとき 中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の後ろにある学習の手引きの「見方を変えて」には、教材の中で出てくる行動に対して見方を変えた発問が用意されており、生徒の視点、視野を広げる工夫が見られ、学習を深めることができる。 ・ 編集社が作った資料が多い。 ・ シーズンに分かれていることで、タイムリーに指導できるようになっているが、使いたい教材が掲載されているシーズンとずれた場合に工夫が必要である。 ・ 本市においていじめに関する取組は最重要課題であることから考えると、いじめに関する教材が少ない。

日 文	中学道徳 あすを生きる 1 中学道徳 あすを生きる 1 道徳ノート 中学道徳 あすを生きる 2 中学道徳 あすを生きる 2 道徳ノート 中学道徳 あすを生きる 3 中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめに関する教材を、ユニットとして集めているのが良い。 ・ 3年 P24 「『いじめ』と向き合う」の中で、「プラットホーム」のコラム等、自分の考えや感情と向き合う様々な資料が掲載されており、自分自身を理解することにつながる。 ・ 学習後、自分の考えをアウトプットする構成になっている。 ・ 3年 P78 「稲むらの火」は、実際の出来事として町の人を守った先人の思いを学習することができる教材であり、語り継ぐべき教材が掲載されているが良い。 ・ 3年 P26 「卒業文集最後の二行」の「考えてみよう」の発問が、主人公に自分を投影し、心の変容から道徳的価値に迫るという進め方と合っておらず、発問に工夫が必要である。
学 研	新・中学生の道徳 明日への扉 1 新・中学生の道徳 明日への扉 2 新・中学生の道徳 明日への扉 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み物ばかりのイメージがある道徳で、視覚的に親しみやすく、P2、3「道徳で学ぶこと・考えること」もわかりやすくまとめられている。 ・ 現在、活躍している人たち（植松努さん（3年 P74）など）を取り上げているのは評価できる。 ・ 1年 P46「裏庭でのできごと」は各社で取り扱いがあり、P49「深めよう」でのまとめは、視覚化に工夫が見られるものの、内面を見つめるという点で学習が深まりにくい。
廣 あかつき	中学生の道徳 自分を見つめる 1 中学生の道徳ノート 自分を見つめる 1 中学生の道徳 自分を考える 2 中学生の道徳ノート 自分を考える 2 中学生の道徳 自分をのばす 3 中学生の道徳ノート 自分をのばす 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年別冊 P13「いじめ撲滅宣言」、2年別冊 P13「いじめの構造図」などがあり、生徒会が行っている活動など、加古川市の取組にとってもよく合っている。 ・ 「道徳ノート」のまとめ方が充実している。 ・ 裏表紙には、学習指導要領に示されている学ばせたいことが明確に記載され、全学年一貫しているのがよい。 ・ 保護者として、「伝統と文化を尊重」「郷土を愛する態度」という項目について、しっかり教えてほしいと思う。「集団や社会との関わりに関すること」の中の学習がしっかりできている。 ・ 3年 P128「運命の木—姫路城の大柱」で姫路城が扱われている。 ・ 目次に、色分けはあるが、価値やめあてが書かれていないことで、子どもたちが教材を読んで、自分たちが感じたことを話しあうことができ、学習を深めやすい。 ・ 全社で扱われている「二通の手紙」の発問例が、葛藤させるような内容になっており、多様な意見を発表することで、深い学びにつながる。 ・ 価値葛藤が見られる教材が豊富である。 ・ 偉人の生き様を扱い、読んで感じ取らせるなど、感動的な内容となっているものが多い。 ・ 道徳は、すべての教員が関わる教科であり、生徒たちに何を伝えたいかということを考える中で、教師自身も育っていける内容となっている。 ・ 1年 P130「語りかける目」は、生徒が読んで涙を浮かべるような、インパクトのある感動的な教材である。 <p>※選定委員から採択にふさわしい教科書との意思表示があった。</p>

<p>日 科</p>	<p>道徳 中学1 生き方から学ぶ 道徳 中学2 生き方を見つめる 道徳 中学3 生き方を創造する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年 P130「ペーパーバード」は、調査員の意見が分かれていると報告もあったが、新任の教師が増えてくる中、指導が深まらない道徳の授業になってしまうのではないか。 ・ 全般的に、生徒が身近に感じられる教材が少ない印象がある。 ・ 「富士山」について扱った教材の内容（3年 P14）や、山中教授についての教材の題名のつけ方（3年 P23「ジャマナカメ」）など、違和感がある。 ・ 障害者差別解消法や LGBT など人権に関する内容が充実しているが、震災に関するものが非常に少ない。 ・ 阪神淡路大震災についての内容は取り扱ってほしい。 ・ 伝統・文化、郷土愛についてはよい教材もあるが、全体的には、難しい文章が多いという印象がある。
------------	--	---